

雪氷写真館 18



写真 1. 南チュイスキー山群のソフィスキー氷河.



写真 2. 氷河上のキャンプ風景.



写真 3. 3m ピットの様子.



写真 4. 北チュイスキー山群のマリイ・アクトゥル氷河.

ロシア・アルタイ山脈での雪氷観測

アルタイ山脈は、ロシア連邦、モンゴル、中国、カザフスタンの国境付近に広がる広大な山脈であるが、この中のロシア・アルタイ山脈 (Russian Altai Mountains) の一部である、南チュイスキー山群 (South Chuyskiy Range) のソフィスキー氷河 (Sofiyskiy Glacier) にて掘削を主とする雪氷観測を実施した (調査期間:2000年7月15日~24日)。写真1はソフィスキー氷河の末端付近から涵養域を撮影したものである。氷河調査は中央左寄りに見える白い Brat 峰 (3867m) のふもとで行なった(49°47'41"N, 87°43'43"E; 標高3450m)。この写真中央下には最新拡大期のサイドモレーンが確認できる。写真2は氷河上のキャンプ風景である。ここではロシア連邦の北極南極研究所(AARI)が製作したハンドオーガーで12.3mまで掘削し、コア資料を得た。また、3mのダブルピットを掘り、積雪断面観測を行なった(写真3)。ピット間の壁の厚さは約30cmで、透

過光により積雪層位の詳細を観測した。我々はアルタイ州のバルナウル市からソフスキー氷河までヘリコプターで移動したが、南北チュイスキー山群で多くの氷河や岩石氷河、氷河地形を観察できた。写真4に北チュイスキー山群のマリイ・アクトゥル氷河を示す。ここでは、氷河の質量収支が観測され、Glacier Mass Balance Bulletin で報告されている。本調査の詳細については、本文中の「ロシア・アルタイ山脈ソフスキー氷河における雪氷観測(549ページ)」参照のこと。

亀田 貴雄 (北見工業大学 土木開発工学科)

藤井 理行 (国立極地研究所 北極圏環境研究センター)

西尾 文彦 (千葉大学 環境リモートセンシング研究センター)